



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第113号
(隔月刊)

ピアソン便り

発行：2023. 12.10

(令和5年12月10日)

発行人：中山 一夫（理事長） 編集人：伊藤 悟（副理事長）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

TEL.FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ～午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

第40回文化サロndeピアソン

「クリスマスリース講習会」

9回目の「クリスマスリース講習会」開催。毎年盛況で、16名枠がすぐに埋まり4名を増員し、最終的には20名の予約受付になりました。



が伝わるでしょう。この講習会も回を重ねるごとに受講者も増えて、先着順のご希望に添えないことにご意見も寄せられています。今後、多くの皆様にクリスマスリース作りを楽しんでいただくために、講習だけでなく材料のご提供や初心者の方を優先するなど運営上の工夫も検討してまいります。さて、今年の出来栄はいかがでしょうか。混迷の時代にあるからこそ、愛と平和への祈りをクリスマスリースに込めて!!

【写真説明】一番上写真…リース素材の確認作業。二番目写真…小学生の女の子も一人分の材料で製作。三番目写真…ヒバの長さを揃えてフドウの蔦に接着する作業。写真下左…小学生の男の子もお母さんの隣でリース作りに挑戦。



親しんでいただくために、材料は夏場にお庭（ピアソン公園）から採取しておいた草花や果実をドライにしたもの。リースの土台になるぶどう蔓は、幾重にも巻いての力仕事です。公園の象徴「三柏みかしわ」の落ち葉は金色にコーティングして活用しました。そしてリースの主役は今年もピアソン記念館の垣根の「ヒバ」。剪定の時期がヒバ採りにも適しており、一週間前に袋



詰めして準備しました。ヒバの木には殺菌、防虫、防腐の効能もあるとのこと、爽やかな香りがクリスマスから新年にかけてお楽しみいただけます。

ピアソン会のクリスマスリースの特長は、「リースに飾る素材の種類の豊かさ」にあると参加者のお声をいただきました。ハーブ部会のメンバーがこの日のために丹精込めて育て採取した草花への思い



第40回文化サロndeピアソンは、恒例の「クリスマスリース作り講習会」を11月26日（日）に開催。午前の部午後の部ともに予約開始と同時に満席の人数で計21名のご参加をいただきました。北見でクリスマスツリーを最初の人々へ紹介したピアソン邸。北見でのクリスマス行事発祥の館（やかた）でもある記念館に少しでも



幼稚園児手作りオーナメント クリスマスツリーの飾り付け

今年で7回目となる幼稚園児の手作りクリスマスツリー設置行事を実施しました。

約百年前、ピアノン夫妻がこのピアノン邸で親子手作りツリーを飾ったことを記念しての行事です。

12月4日月曜日の休館日、幼稚園児27名が事前に園で作製した各自の名前入りオーナメントを持参し、モミの木の気に入った場所に飾り付け、その周りに綿を雪化粧として加え、満足そうに微笑んでいました。



【写真】上／飾り付け作業。右／飾り付けが終わり記念撮影。左／ピアノン邸時代の親子ツリー飾り付け。

10月11日水曜日の午後2時過ぎに、教育委員会委員と教育長訪問がありました。委員は田尾委員・堀澤委員・森脇委員・水谷委員の4名。この日朝から、武田教育長が、中学校2校・小学校1校、最後にピアノン記念館を案内という日程でした。当館指定管理者の中山一夫ピアノン会理事長が委員をお迎えし、事務局から記念館の運営について説明をしました。

北見市教育委員会委員の訪問！



ピアノン記念館で、来館者に対して日常的にどのような接遇をしているかなど簡単に説明し、北見市におけるピアノン記念館の歴史の経緯や今後果たすべき役割など、またピアノン会が指定管理者として記念館運営に心がけていることなど、手短かに説明しました。その後は、建物の説明に加え、窓の特徴、展示物の説明など、各委員さんの質問やお話に伝えるという流れで1階展示室説明、2階の「姉妹都市エリザベス市記念室」では最近の交流状況説明。「ピ

アソン夫妻と縁の人々」の部屋では、各種講習会・小規模企画展など多目的で利用している状況説明。「ヴォーリス記念室」では、全国からヴォーリス建築ファンが来館することなどを報告しました。「唐笠何蝶記念室」については、ピアノン邸保存の功労者として、また戦後北見の文芸復興にこのピアノン邸を活用し、第一期「北見文化連盟」の創設とその活動など、この建物が、北見の文化活動に欠かすことのできない存在であることを委員に説明。委員は予定時間を延長して観覧された後、お礼の言葉を残され帰途につかれました。

ピアノン記念館英語版「エコバッグ」



昨年、ピアノン記念館「オリジナルエコバッグ」を製作しましたが、好評ですぐに品切れとなりました。A4サイズの書類や本など、ちょっとした買い物などの収納用として、34cm×28cm×5cmの大きさ、布地も柔らかいものでした。

今回製作したエコバッグは、前回とは趣向を変え、Mサイズの36cm×37cm×11cmの大きさ、布地も厚め帆布のトートバッグです。片面にピアノン記念館のデザインを配置し、北見市指定文化財や北海道遺産を英語で表記し、ピアノン記念館名も英語でのデザインです。このバッグは一部「ほっかいどう遺産WAON」の助成を受けての製作です。

来年は、ピアノン氏の故郷エリザベス市と北見市の姉妹都市提携55周年になり、各種の記念行事を計画していますので、このエコバッグもエリザベス市への記念土産として使用できればと考えています。このバッグの販売は12月1日より記念館で。

頒布1000円(原価)

投稿

『ピアノン夫妻書簡・レポート』集』未公開文書①

アイダ・ゲップ・ピアノンから

米国伝道局への手紙

一九二七(昭和二)年

「青い目の人形」歓迎式典、ミスマクローリーの復職

文責：北原俊之

小樽、北海道、日本
ロース幼稚園
一九二七年五月九日

親愛なる皆様へ

過日、私たちは、「アメリカ友情人形」に関わりまして、素晴らし
い時を過ごしました。小樽には、
十六体が届きました。十六の学校
が一体ずつ受け取るようになって
いたため、各校の代表が市長主催
の「人形」歓迎式典に参列し、引
き渡りに応じるよう要請をうけま
した。私たちの幼稚園と小樽市内
にもう一つある幼稚園が、この幸
運な十六校に含まれておりました。
歓迎式典は、日本の公立学校の
一つのとても大きな体育館で行わ
れました。私は、先生一人と子供
達八人を連れて参加しました。子
供達は、人形を受け取るために壇
上にすすみお辞儀をする回数まで
きつちりと指導を受け、また、こ
の人形を歓迎するために特別に作
曲された歌の指導も受けました。
この式典には、子供たちが千人、

教師と来賓などが百人ほど参加し
ていたと思います。市長は、何ヤ
ドもある長い式辞の巻紙をほどき
ながら、ゆつくりと厳肅な雰囲気
で読みあげ、そして、巻紙をまき
直しました。また別の役職の人が、
「友情人形」の意義を説明しまし
た。次に、市長が、日米の国旗の下に
威儀を正して座っている十六体の
人形が置かれている壇上にすすみ、
人形ひとつひとつを、それを受け
取る子供に、厳肅な雰囲気の手渡
しました。私たちのロース幼稚園
に、当地三代目の米国人宣教師 Rev.
Frank Cary (ABCFM) のお子様で
オーティス・ケアリー Otis Cary と
いう男の子がおりました。私は、
この子に付き添ってもらい、受け
取り代表となる日本人の少女にと
もに壇上に上がってもらいました。
この日本人少女は、私たちの教会
の長老のひとりであるクリスチャ
ン医師の娘さんです。私たちに渡
された人形は、ミスター・ピアノ
ンの故郷のエリザベスのすぐ隣の
〔郡にある〕ニュージャージー州モ

ントクレア Montclair からきた、と
てもおしゃれでかっこいい素敵
なガールスカウトの少女です。

しかし、私たちは、いただいた
人形に関して、まだすべきこと
し終えておりません。役所から分
厚い手紙をいただきまして、九つ
か十のことをするように求められ
ております。すなわち…

一 ギュリック博士 Dr. Gulick
宛にお礼状を書く。

二 ギュリック博士の手紙を翻
訳し子供たちに伝える。

三 人形を受け取った報告文書を
役所に提出する。

四 子供たちにお礼の気持ちをこ
めた手紙か絵などを書(描)か
せ、五月十五日までに役所に送
付させる。

五 各学校でも、人形の歓迎式を
特別におこなう。

六 この人形を囲んで幼稚園の子
供たちの写真を撮り、アメリカ
に一枚、東京の文部省に一枚、そ
して、地元役場に一枚送付する。

七 「日米両国のよりよき相互理解」
がもたらす望ましい状況を子
ども達に説明する。

八 人形本体、その衣服、そのパ
スポートを無くさない。

九 ギュリック博士に小樽の絵
はがきを送ること

十 毎年三月三日のひな祭りには、
この人形を飾ること

さて、今、私たちは大いに心ウ
キウキしています。というのもミ
ス・マクローリ Miss McCortney 園
長が「公休を終えて」戻ってくる
からです。彼女は「今月の」十七
日か十八日に小樽に着く予定で
す。私は二十一日に彼女を歓迎す
る同窓生主催の歓迎会を計画して
います。私たちは、この冬に同窓
会を初めて開催したところ、ロ
ース幼稚園の小さな卒業生であつた
子ども達が百名以上も集まりまし
た―その数多くが成人のお父さ
んやお母さんとなっていました！
幼稚園も三十歳(年)になるの
です！ 現在、この幼稚園の同窓
生名簿には、一五七名記録されて
います。「歓迎会には」園児の母親
も参加します。

近いうちに、小樽にいる外国人
女性全員(六、七人ほど)を集めて、
ミス・マクローリのためにお茶会
を開こうと考えています。また、
札幌でもミス・マクローリの歓迎
を兼ねた伝道集会が予定されてい
て、その後半でミスター・ピアノ
ンが「ローレンス・ピアノン・レ
イク」Lawrence Pearson Lake の洗
礼を行うことになっていきます―
これが北海道中会の最新の洗礼者
となります。それが終わって五月
二十四日には、大好きな野付牛に
大急ぎで帰ることが出来ます。野
付牛では、私たちがいない間、二ヶ
月間もヒバリが鳴いて待っていて
くれています。

アイダ・G・ピアノン 敬具

出典：
長老派教会歴史協会(フィラデルフィア)
資料 The No.1 0010-0011

※「アメリカ友情人形」

〈青い目の人形交流〉 1924

年に米国で日本移民を締め出す「排
日移民法」が成立し、日米間の国
民感情が悪化したことを受け、米
国人宣教師シドニー・ギュリック
は将来の友情交流を築くため、
人形交流を両国に呼び掛けた。米
国の学校などからの寄付で実現し、
名前や手製の衣装、手紙が添えら
れた。賛同した渋沢栄一は西洋人
形約1万2000体の受け入れに
尽力。答礼として日本からは58
体の日本人形が米国に贈られた。
青い目の人形は、太平洋戦争時に
は敵国の人形として多くが廃棄処
分され、国内で300体余りしか
残っていない。(東京新聞)

※市長主催の「人形」歓迎式典

昭和2年4月28日(木)午後
2時から小樽稲穂小学校体育館で
行われた。(小樽新聞昭和2年4月
29日付、11面) *新聞の日付は誤植。

※ローレンス・ピアノン・レイク

Miss Smith 在任中に北星女学校
で教えていた Leo Lake と Mrs.
Ruth B. Lake 夫妻の子供と推測さ
れる。

前掲の手紙を補足する 関連文書

前掲の手紙を補足するメモ
『ピアノソング集』
書簡・レポート集より

出典 『ピアノソング集』書簡・レポート集
(NPO法人「ピアノソング集」発行)
p.166 (PNo.22; File.2_0114-0118)

1927年5月16日

訳者註 ※人形の名前「キューピー・ブラウニー」のブラウニーについて。

ガールスカウトの部門で、小学校1〜3年生が対象となる「ブラウニー・ガールスカウト」の意味を暗に示している。

〔ロース〕幼稚園の統計

1926年度(1926〜1927年)

1926年4月から1927年3月まで、
登録園児 100名
(男子50名、女子50名)

1927年3月

卒園 57名
1927年4月時点での
在籍園児 23名

入園児 67名
新年度当初の登録園児計90名

ニュージャージー州モンクトクレアからのアメリカ友人「キューピー・ブラウニー」28日小樽市長主催で人形歓迎式典が開催され、「ロース幼稚園」に手渡されました。「人形は」現在、幼稚園が所有しています。

アイダ・G・ピアノソング
小樽ロース幼稚園

小樽の人形歓迎会を伝える
当時の新聞記事
小樽新聞

※読みやすくするため、段落、句読点、現
代風の漢字・仮名遣いにしてあります。
*新聞の記事中の日付は28日を誤植したものと
考えられる。ここでは既に訂正済み。

【新聞記事】

お人形さんの歓迎会

米国世界児童親善会から小樽の学校におくられた碧い眼のお人形さんの歓迎会が二十八日午後二時から稲穂小学校で開催されるといので、各小学校から代表児童六七十名づつと双葉幼稚園及ロース幼稚園から数名づつがそれぞれ

先生に連れられて集った。「まあ可愛い」「あたしたちの学校のはどれでしょう」などと囁き合せて壇上に飾られ可愛いおめめをばつちりと見開いているお人形さんに見惚れていた。林田市教育課長が人形について詳しい説明をすると面白がって手を拍っていた。

それから米人マツキンソンの令嬢緑小学校四年ベッティさんの手から木田川市長令嬢稲穂小学校二学年文子さんの手に一つの人形が渡され、次に木田川市長は各学校及幼稚園の代表児童に順次授け、終つて、十六の可愛い平和の使者をお迎えして歓迎会を催したことは日米親善のため真に慶ばしく……太平洋を渡つて長い旅をつづけて来たのだから淋しい思いをさせないようという市長心づくし

の歓迎の辞があつて、児童たちは海のあちらのお友だち……お國のつもりでいらつしやい、という歓迎歌を合唱して午後二時半閉会した。尚写真をつけて感謝状を市からも各学校からも米国へ送る筈になつている。

(小樽新聞
昭和2年4月29日付、11面)

新聞写真(左上)のドレスを着た女の子はカマダ・アキコさんで、男の子はオーティス・ケアリーのように思えます。ドレスが後掲(次ページのロース幼稚園での記念撮影)の人形を持つた写真中央の女の子と同じドレスのように見えます。(訳者)



アイダ夫人がギューリック博士に送付した文書の一部である。ろ

※点線部は、恐らく誤植と思われるので、訳者の独断で訂正済み。

【p60〜p62】
小樽からも報告が来ています

アメリカ友人人形が日本に到着し、その中から16人の米国代表の使節団「16体の人形のこと」が小樽に送られてきましたので、私たちの幼稚園は、その人形の1つを受け取るということで、16校の学校の一つに選ばれました。4月28日、小樽市内のある小学校の大きなワンダウバ(運動場・体育館のこと)で開催された市長主催の歓迎式典に私たちは参列するよう要請を受けました。オーティス・ケアリー Ois Careyを含む8名の園児、私たちの園の日本人教諭3人の中の一人、と私が、私たちの幼稚園の代表団として参加しました。ステージ「舞台」には、日本と米国の国旗が飾られ、そこに人形が整然と並べられていました。式典の主催責

任者が、開会の挨拶として、説得力のある人念に準備されたスピーチをして、アメリカ友情人形が日米のさらなる良好な相互理解をもたらすことを強調し、それぞれの人形と各々がもっているパスポートについて詳しく説明をしました。「友情人形を歓迎する」歓迎の歌が、「会場で見守っていた」参加各小学校の驚くほど多数の生徒たちにより盛大に歌われました。ひきつづき、小樽市長がステージに登壇して、長い、長い4ヤード(約300cm)以上の長さの巻紙の式辞を読み上げました。そして、最後にいよいよ、人形が手渡される時が来ました。

まず最初は、「友情人形はアメリカの市民により日本に友好的に贈られたもの」という意味合いを示すための演出として「小樽の商業専門学校で教えているアメリカ人教授のかわいいお嬢様ベティ・マキノ、Betty McKinnonから、小樽市長の幼いお嬢様(その妹が吾がロース幼稚園の園児)に16体の人形が引き渡されるという形をとりました。その次に、各学校の名前が告げられ、その代表者が出てきて、儀礼的な足の運び方やお辞儀をいろいろしたあと、市長本人から人形を受け取るのです。私は、オーティスを付き添わせて、吾が園の代表者カマダ・アキコ(小樽長老派教会の長老の一人のお嬢様)を

ステージに登壇させましたが、一緒に付き添って登壇したオーティスが、吾が園に渡されることになったとてもかわいいたがールスカウトの人形を見て、思わず自分の気持ちを口にしてしまいました。「僕にももらえないの?」。その後、その友情人形を園に展示して、園児のみんなにお披露目をし、友情人形の取り組みがいかに偉大で立派なことであるかを考えてもらいたいと思ひ、この人形をプレゼントしてくれた立派な人はだれか、小樽で最も「エライ(有名な)」あの人は...と問いかけたところ、一人の男の子が「ジーン・テンノー(日本の最初の天皇、紀元前660年)と答えた。「ジーン・テンノーがアメリカ友情人形を渡しているのは見なかつたですね!」もう一度子ども達に同じ質問を投げかけると、別の子供が、「テンノー・ヘイカ(天皇)」、さらに別の子供が、「カミ・サマ(神様)」との答え。私は、園児たちに、ヒデオのお父さんの市長さんだったでしょうと話すと、子ども達はみなすぐに理解してくれました。

小樽に届いた「キューピー・ブラウニー」を送り出したモントクレアからの報告文書

【18頁〜19頁】
ニュージャージー州からの報告です

昨晚、心に残る送別のパーティーが行われました。モントクレア市の子どもの手で衣装が着付けられた175体の人形が一堂に展示され、とても壮観に並んでいるすば

らしい人形たちの中から、ミス・モントクレアを選び出すのは至難のわざでした。見ると人形たちは、驚くほど多種多様な衣装・コスチュームを身につけていました。例えば、懐かしき初期開拓時代の2少女、手の込んだ刺繍が施されたパンタレットを身につけた南部の美少女、ガールスカウトの女の子とその幼い妹の「ブラウニー・スカウト姿、人目を引くキャンプファイアー(団)の女の子のグループ、典型的な北米インディアンの子、卒業正装を着た赤十字社の看護師2人など。「また他にも」オーガンジー生地格子柄の生地を合わせた服、あるいはスポーツの衣装、あるいは「襟・袖・裾・ポケットなどを」毛皮で部分的に縁取りした上着などなどを身につけているたくさんのかれんでいたいけな姿の人形の渡航者たちもいて、どれもすべてがアメリカの子ども達の生き生きとした姿が再現されたものでした。

日本に旅立つことになる人形たちの他にも、興味を引きつけたものが、日本のひな祭りの人形一揃い(「ひな壇飾り」)の中から、いくつかの人形とその飾り物などを展示したものでした。ミス・モントクレアを決める投票をした後に、短時間ではあるがいくつかの演目が行われました。キンバリー・スкульの生徒たちが、人形に関する歌を何曲か披露し、その中には

日本の16世紀の歌「さくら」が含まれていました。また、人形の踊りが演じられ、そして、日本のひな祭りのお話が披露されました。

Dolls of Friendship: the story of a goodwill project between the children of America and Japan by Committee on World Friendship Among Children.



Publication date 1929
Topics Dolls, Children - Japan.
Publisher New York, Friendship Press

アイダ夫人がキューリック博士に送付したであろう写真
出典 『ピアノン夫妻書簡・レポート』集
(NPO 法人ピアノン会発行) p.5

写真中央に、モントクレア市から贈られた人形「キューピー・ブラウニー」。抱いている白いドレスの女の子は、贈呈式で代表となったカマダ・アキコ(小樽長老派教会の長老の一人のお嬢様)さん。撮影日時は、1927年5月下旬。マクローリ園長が小樽に戻った5月17日以降。(すべて訳者推定)

「ニュージージーランドからの便り」第42回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2023・10・6 (金)

◆お便りありがとうございます。皆さんがお変わりなく、北見の秋を過ごしておられることでしょうか。私は今ファンガバラオにいます。ここニュージージーランドは先週末までは冷たい強風が吹く変わりやすい春の天候でしたが、最近はずいぶん暖かいです。じゃがいもは土から芽を出し、順調のようです。午後に、残りのものを植え完了です。プラムの花が終わりました。以前よりも花が多いので豊作を期待しています。先日、シエークスピア公園の池に6羽の子鴨を連れて灰色鴨を見ました。パラダイスダックのつがいはどこかへ行ってしまうようです。

◆こちら、10月4日予定の総選挙活動の最中です。残念ながら討論は低調、複数政党が、評価に値しないような政策を掲げるなど。世論調査は保守ナショナル・パーティ有利を報じていますが、政権構成には他党の支援も必要の様子。目下、労働党党首のクリス・ヒプキンズ首相はコロナ感染症で隔離、支持拡大には残念な状況です。期

日前投票の制度があるので私は近々その予定です。

◆今日、ヨーロッパから姪のレイチェルと家族ノアム、エイモス、アロンが戻りました。素晴らしい体験でしたが、戻って来られて良かったです。

◆10月17日出発の日本への旅は準備も整い、間もなく皆さんにお会いできます。



故郷ファンガヌイの北、ブッシイ・パーク牧羊場主の歴史的な邸宅

2023・10・9 (月)

◆北見滞在中にと整えられた集い、感謝いたします。10月31日(火)午後5時30分、ピアソン会ハーブ部会の方々と。皆さんとの再会が楽しみです。



今朝自宅の庭、満開の木蓮

2023・10・16 (月)

◆ESSの集いは10月28日(土)11時、ホテル黒部。その後コーヒESHOPPくぼた。楽しみです。こちら、全てが整い、これから弟マールレイ(オークランド)の所へ。明朝の国際便搭乗に備え一泊。天候は良く、池の睡蓮が咲きました。

◆総選挙はナショナル・パーティが圧勝。残念ですが、この国の民主的な選択ですから尊重されなければなりません。

2023・11・3 (金)

◆快適な列車便で無事に札幌です。ESSの皆様、北見駅でのお見送りと贈り物、ありがとうございます。北見は素晴らしい、当時に戻ったような気持ちでした。ピアソン会ハーブ部会の方々の親切なおもてなし、特にジャパニーズ・スタイルの食事は美味しいご馳走でした。部会の方々によりしくお伝えさせていただきますように。

2023・11・14 (火)

◆札幌では季節初の降雪。ウィンターワンダーランドのようですが、じきに溶けるでしょう。楽しい日々です。

2023・11・20 (月)

◆千歳から順調に。成田の国際線待合室です。北見も札幌も共に素晴らしい時でした。皆様のおもてなし感謝いたします。来年またお会いできますように。

グラハム・ハード

2023・11・22 (水)

◆昨日(21日)朝オークランドへ無事に戻り着き、今はファンガバラオアの自宅にくつろいでいます。身の回りでは、全て人も状況も良

い状態です。混み合った長旅でしたが、何もかもが順調に進みまして。◆北見の皆様方がお変わりありませんように。諸々の感謝を込めて
グラハム・ハード

瞳ふあっしょん・瞳けあ
めがねのよっしー
代表 岩井 敏忠
〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目
携帯 .090-2693-1919 TEL .0157-57-3664
定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

編集後記

秋があつという間に終わり、もう冬の季節となりました。何故か、今年はいんフルエンザが猛威を振るっているようです。なかなかマスクを取れない年が続いており、マスクが顔の一部となったと思えるようになりました。家に戻っても、誰もいないのにマスクを外し忘れていて自分に気づくことがあります。

英語版のエコバックが出来上がりました。「北海道遺産W.A.O.N」の助成を受けての事業でした。来年、ピアソン夫妻の姉妹都市エリザベス市との提携55年を迎えるにあたり、お土産用としても利用したいと考えていますが、記念館で1000円の寄付金での頒布も実施します。30点ほどの頒布となります。

今年も幼稚園児の手作りクリスマスマツリを展示しました。昔ながらのツリーです。見に来てください。

(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟